



中村正・秋田屋本店社長

今世紀に入って「スロ」を掲げた「岐阜市スロライフ」という言葉が「ローライフ推進実行委員会」が発足し、会長職を多く聞かれるようになった。元々はイタリアのブ私が拜命することになったという小さな田舎町だった。実行委員会ではスロラ起こったスロフードフードコンテストの開催運動に端を発し、スロ催やスロツーリズムのライフへと広がったものイベント、あかり灯ウォである。現代のスピードーク開催等の事業を実施社会に対して生活をよりしたが、その中の一つと豊かにするための生き方して落語があった。

最近のテレビはバラエ

岐阜市では11年前「スロライフシティーぎ

全日本学生落語選手権「策伝大賞」



なかむら・ただし 1955 友会代表幹事、岐阜南法人会
1年、岐阜市生まれ。業界団 副会長、岐阜商工会議所常議
体の県製菓協会展長、みつばち 員、県フェンシング協会展長、
の家庭理事長、県養蜂組合連合 岐阜市体育協会副会長、岐阜
会長を務める。また県経済同 北高校同窓会長を務める。

ティー番組が全盛で直ぐ 第1回の参加大学数は 実行委員会、NHK岐阜
に笑いが取れるものばかり 29校、出場人数は76人で 放送局で、実行委員会の
りの様相であるが、それ 大変素晴らしい盛り上がり 会長は初代が葛谷昌之元
に対して落語は「おち」 った大会となった。昨年 岐阜薬科大学学長、次が
が最後にくるなどスロー まで毎年開催され、10回 水谷雄二文彦堂特別顧
な笑いの代表と云える。 を数えるに至り、参加大問 第6回から現在まで
そのような背景のなかで 学数、人数とも右肩上が 私が務めさせていただ
細江茂光岐阜市長の提案 りで今や落語の甲子園と ている。
もあり、2004年2月 も云われ、全国の大学の この10年間の発展は様
に岐阜出身で落語の祖と 「落研」と称される落語 々な要因が相乗効果を発
いわれる安楽庵策伝和尚 研究会のメンバーの目標 揮してのことであるが、
の名を冠した全日本学生 となつている。 特に落語界の東西の大家 一色に染め、岐阜から全
落語選手権「策伝大賞」 主権は岐阜市と岐阜市 板である桂文枝師匠と立 国に発信される3日間の
がスタートした。 笑いと感動のまちづくり 川志の輔師匠の参画と絶 一大イベントを、11回目

岐阜から元気を発信

大なる協力の今年も大成功を収めら
の賜物と云 れるよう実行委員会会長
える。両師として全力で努める所存
匠共、学生 である。

時代に大学落語で活躍さ
れ、学生達が発表する場
の必要性を強く思われ、
策伝大賞に大きな期待を
持ち続けていただいでい
る。